

第8回猪苗代町議会定例会 町長説明要旨

開会：令和4年12月6日（火）

本日、令和4年第8回猪苗代町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、何かとご多用の中ご出席いただき、ご審議をお願いできますことに対しまして、深く感謝申し上げます。

今議会が開催されるに当たり、令和4年度一般会計並びに 特別・事業会計の補正予算 及び 条例の一部改正、財産の取得案件など、重要な議案等を提出いたしておりますので、慎重なるご審議をお願いするとともに、議員各位のご理解とご協力を併せてお願い申し上げます。

提出議案等の説明に先立ちまして、当面する町政の諸課題につきまして、所信の一端を申し上げたいと存じます。

（新型コロナウイルス感染症対策について）

はじめに、新型コロナウイルス感染症対策について申し上げます。

まず感染者数の把握につきまして、9月下旬に全国一律で全数届出が終了し、福島県では9月26日に陽性者が判明し、27日公表分から見直されたところで

あります。

この見直しにより、医療機関からの発生届の対象者が、65歳以上の方や重症化リスクのある方などの4類型に限定され、これまで市町村別で公表となっていた感染者数が、保健所単位で集計し公表されることとなったところであります。

次に、県内の状況であります。11月に入り感染が再拡大し、11月7日には9月7日以来の2千人を超える感染者が確認され、特に10代の若者の感染が急拡大し、また病床使用率が60%を超える状況も見られ、会津保健所管内においても2百人を超える感染者が確認される日もあり、感染者数が高止まりの状況で推移してきております。

一方、町内においても11月には、複数の介護施設で感染者の拡大が確認されるなど、若者のみならず高齢者の方々の感染も確認され、更なる感染拡大がみられたところであり、改めて介護事業者に対して感染防止対策の徹底をお願いしたところであります。

町といたしましては、町民の皆さんに10月から本格的に開始したオミクロン株対応ワクチンの接種、マスクの正しい着用、冬期間になりますがこまめな換気など、基本的感染対策の徹底をお願いするとともに、全ての町民の皆さんと危機感を共有し、この難局を乗り越えていきたいと考えておりますので、一層のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

（令和５年度予算編成方針について）

次に、令和５年度予算編成方針について申し上げます。

本年１０月の内閣府発表による月例経済報告では、「景気は、緩やかに持ち直している。」とし、先行きについては、「ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。」としております。

また国では、本年６月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針２０２２」に基づき、総務省が本年８月に公表した「令和５年度の地方財政の課題」において、「新型コロナウイルス感染症に対応するとともに、デジタル変革への対応やグリーン化の推進、活力ある地域づくりの推進、安全・安心なくらしの実現、持続可能な地域社会の実現などの重要課題に対応しつつ、行政サービスを安定的に提供できるよう、「新経済・財政再生計画」を踏まえ、地方の安定的な財政運営に必要となる一般財源の総額について、令和４年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保する。」としております。

一方、福島県が発表した「最近の県経済動向」によ

る県内 10 月期の経済情勢は「県内の景気は、先行きに不透明感がみられるものの、一部に持ち直しの動きがみられる。」と報告され、前月の総合判断が据置きとなっております。

また、福島県が 11 月 8 日に発表した 令和 5 年度当初予算編成方針の基本的な考え方においては、「総合計画に基づく力強い復興と福島ならではの地方創生への取組、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と社会経済活動との両立に向けた取組、自然災害からの復旧・復興、原油価格・物価高騰への対応、更には防災力の強化など、国の動きを踏まえた切れ目のない対策が引き続き必要である。」としております。

こうした中で、本町の主要産業である観光業については、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況にあるものの、徐々にではありますがウィズコロナへの移行が進められていること、また、降雪が多く町内スキー場 入込客数が伸びたことなどから、本年 1 月から 9 月までの本町の主な観光施設の延べ入込客数は約 174 万人で、前年同期の約 123 万人と比較し、約 41.5%、約 51 万人の増加となっております。

一方、農業については、前年に引き続く米価の低迷、物価高騰による生産費の増加など非常に厳しい状況にあることから、農業経営の安定確保が求められており、加えて、未だ風評被害の影響が根強く残っている

ことから、風評払拭と本町農畜産物のブランド化の一層の推進や競争力強化に取り組んでまいります。

このように本町の地域経済は、依然として厳しい状況に直面しており、新型コロナウイルス感染症への対応や震災からの復興が求められていることを念頭に置きながら、事務事業を推進する所存であります。

また「第七次猪苗代町振興計画」後期計画の2年目である令和5年度は、まちづくりの基本理念「ともに地域を育て、みんなが心地よく暮らせるまち猪苗代」の実現のため、引き続き5つの基本目標に基づき、具体的な事業執行を進めてまいります。

さて、本町の財政状況等は、歳入の根幹である町税収入が令和5年度以降も減少が見込まれ、国は地方の安定的な財政運営に必要となる一般財源の総額については、「令和4年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保する。」としておりますが、引き続き地方交付税は巨額の財源不足が生じ、地方交付税総額（出口ベース）の令和5年度概算要求額は約18兆2千億円であり、令和4年度比で0.8%の増額となっているものの、「令和5年度地方債計画（案）」での臨時財政対策債の額は、対前年度比26.9%の大幅な減額となっており、今後も注視が必要であります。

一方、歳出につきましては、限られた財源を有効に活用するため、経費の削減と見直しを行い、行政のス

リム化に努めておりますが、扶助費等の義務的経費は増加傾向にあり、また、安全で安心して学べる環境を整える統合小中学校整備事業、都市計画及び生活関連道路などの社会資本整備、人口減少・少子高齢化対策など多額の財政需要が見込まれております。

このような中、令和５年度は統合中学校の新屋内運動場建設工事や校庭整備工事に加え、令和６年４月開校予定の統合小学校の改修工事が予定されることなどから、これまでに増して起債事業の選択は、振興計画に位置づけた事業であっても、慎重かつ厳正な重点選別を行ってまいります。

これらを踏まえ、令和５年度当初予算編成の基本方針としては、自主財源の根幹である町税収入の減少が見込まれるなど厳しい状況下にあります。第七次猪苗代町振興計画の実現と、新型コロナウイルス感染症対策、震災からの復興に向けた事業への重点化を図ることといたしておりますので、町民各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

（水稻やそばの収穫状況について）

次に、水稻やそばの収穫状況について申し上げます。

はじめに、本年の水稻の収穫状況であります。農林水産省は１０月２５日現在で、福島県の作況指数を「１００」、会津地方は「９９」としており、収量につきましては平年並となりました。

なお、本年産米の品質でありますが、J Aの集荷・買入実績によりますと、J A会津よつば全体の一等米比率が97.2%であったのに対し、本町産の一等米比率は99.2%で、管内平均を2.0ポイント上回る結果となりました。

今後、県やJ Aをはじめ関係機関と連携し、生産者の方々と協力しながら、本町産米の高品質化・ブランド化を図り、消費者に選ばれる産地づくりを進めて参ります。

次に、そばの収穫状況でありますが、本年は264ヘクタールの刈り取り申込み面積に対し、荷受重量は153トンで、昨年より92トン減少いたしました。

なお、本年産のそばの生育につきましては、播種期の豪雨により播種率が悪く、その後から収穫期までは天候に恵まれたものの、例年を大きく下回る収量となっております。

また、そば乾燥調製貯蔵施設に搬入された玄そばについては、等級検査の結果、全て一等となっており、先月に行われた「猪苗代プレミアム新そば月間」においても、県内外から多くのお客様が町内のそば店を訪れ、好評を頂いたところであります。

今後、「蕎麦の里」宣言の町として良質のそばを生産し、「いなわしろ天の香」ブランドの確立を図りながら、農業の振興と農家所得の向上に努めてまいります。

（雇用情勢について）

次に、雇用情勢について申し上げます。

厚生労働省福島労働局の情報によりますと、県内の来年３月卒業予定の高校生の求職者数は９月末現在で３，６７３人、求人数は８，６０５人、求人倍率は２．３４倍となっております。会津地域に限ってみますと求職者数は５０３人、求人数は１，１１２人で求人倍率は２．２１倍となっております。

また、「ハローワーク会津若松」の月例報告によりますと、９月分の有効求人倍率は県内が１．５０倍、会津若松管内は有効求職者数が３，６１１人、有効求人数が５，７９４人で、有効求人倍率は１．６０倍と、去年同期を０．２５ポイント上回る状況となっております。

町といたしましても、町内企業に若者の雇用拡大を図るため、「新規学卒者等就職支援奨励金」等の周知に努めるとともに、町無料職業紹介所において求職者への相談窓口の充実と最新の求人情報を提供してまいります。

（観光振興・風評被害対策について）

次に、本年１０月以降の観光振興・風評被害対策について申し上げます。

冬期の町内スキー場における誘客対策として、今年も町内４スキー場の共通シーズン券「いなパス」の

販売を11月1日から開始しており、また、猪苗代観光商品券「いなチケ」の販売を今月1日から開始しております。

新型コロナウイルス感染症の専門家によりますと、全国的に第8波の感染症拡大傾向に入っているとのこと指摘もございますが、早期収束を願って「いなわしろ雪花火事業」を開催するなど、引き続き、関係団体と連携を図りながら冬期シーズンの誘客活動を進めるとともに、本町の観光振興、風評払拭につながるよう取り組んでまいります。

（経済対策について）

次に、経済対策について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症 再拡大により、町内の商工観光事業を取り巻く経済状況は まだまだ厳しい状況にあります。

観光客の減少により大きな影響を受けている宿泊事業者を支援するため、昨年度に引き続き、町民宿泊施設利用助成事業「町民割」を10月28日から販売し、更に、今年度新たな事業として、観光客における消費購買の活性化を図るため、プレミアム付き電子クーポンを11月1日から販売し、加えて、全町民を対象とした第2弾となる町民応援商品券交付による経済対策を実施しております。

これから、冬期間最大の観光誘客の目玉であるスキーシーズンを迎えますので、引き続き徹底した新型コロナウイルス感染対策に努めるとともに、更なる町内経済の活性化を図ってまいります。

（統合中学校整備事業について）

次に、統合中学校整備事業について申し上げます。

新生猪苗代中学校ですが、開校してから約8か月が経過し、生徒たちは学校生活にも慣れ、学業にそして部活動に専念しております。

先日は、山形県で開催されました東北中学校駅伝競走大会に女子駅伝部が出場し、3位入賞を果たすことができ、これまでの努力が報われる成績を残しております。

また、先月のふくしま駅伝では、男子7名、女子5名、計12名の猪苗代中学校の生徒が出場・協力し、本町チームの入賞に貢献することができました。

中学校統合という大きな環境の変化がありましたので、引き続き、生徒の様子を注視し、全ての生徒が充実した中学校生活を送られるよう支援してまいります。

また、新屋内運動場の建設工事ですが、2階の躯体工事が終了し、雪解けを待って鉄筋工事、更には屋根工事を行い来年の8月に完成させる計画であります。

一方、旧校舎の解体工事ですが、南側の管理棟及び

北側の教室棟の解体が終了し、雪解けを待つて建物の基礎部の取り壊しを行い、新 屋内運動場完成後に旧 屋内運動場を解体する計画であります。

工事実施に当たっては通行規制や騒音など、周辺住民の皆さんにご迷惑をかけないように、今後も十分配慮してまいります。

（小学校の統合事業について）

次に、小学校の統合事業について申し上げます。

小学校の統合につきましては、耐震が図られていない危険校舎と複式学級の解消を図るため、現在の小学校6校を令和6年春に2校に統合することから、現在小学校統合準備委員会を開催し、着々と準備を進めております。

準備委員会では、統合となってもこれまで各学校で実施してまいりました特色ある活動を継続することとし、本町の未来を担う子供たちが、より良い学習環境の中で「生きる力」・「確かな学力」・「健やかな体」を確実に身に付けられるよう支援してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

（文化・スポーツの推進について）

次に、本年10月以降の文化・スポーツの振興について申し上げます。

はじめに、「母と子の絆づくり」を通して本町の

取組を全国に発信する「母から子への手紙コンテスト」事業は、今年で21回目を数え、全国から1,367作品の応募があり、10月の一次選考会で50作品が選定され、11月の最終選考会で各賞が決定され、今月4日に表彰式を開催いたしました。

今年も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、「猪苗代町のお母さん委員会」による、十分なおもてなしはできませんでしたが、県内外から来町される受賞者の方々を歓迎し、本町の魅力を広く発信したところであります。

また、図書歴史情報館「和みいな」においては、10月25日から約1か月間、「猪苗代偉人を考える会」との官民協働により、「保科正之没後350周年記念事業」として、パネル展示などの「保科正之展」を、また、10月29日には「保科正之の遺言」と題し講演会を開催し、好評を得たところであります。

今後もしばしば文化事業を通して、町民の皆さんとともに、文化の香り高い町づくりに努めてまいります。

次に、スポーツの振興について申し上げます。

10月20日に開催されました「福島県高等学校駅伝競走大会」は、本町での開催が9年連続で通算12回目となり、男子21チーム、女子15チームの参加によって熱戦が繰り広げられました。

新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、

選手の皆さんは都大路を夢見て、精一杯力を発揮できたことと思います。協力いただいた町内の関係団体に感謝し、来年につなげてまいりたいと考えております。

また、11月20日に開催されました「第34回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会」では、総合11位、町の部3位という成績であり、今後の更なる飛躍につながるものと大いに期待しております。関係者各位のご協力とご尽力に厚くお礼申し上げます。

次に、来年2月に猪苗代スキー場で開催予定であります第101回全日本スキー選手権大会（アルペン競技スピード系）、第38回全日本学生スキーチャンピオン大会、第96回全日本学生スキー選手権大会（インカレ）は、選手が一気に高速でダイナミックに斜面を滑り降り、最速タイムを競い合うスーパージヤイアントスラロームでありアルペンスキーの花形の種目であります。3大会を3日間に分けて、全国からそれぞれ約200人の学生や一般選手が来町し競い合う、他では見られない競技となります。

本町では全日本クラスの大会は久しく開催されておらず、開催地である町としても全面的に協力・支援してまいります。

（提出案件について）

次に、本定例会に提出いたします案件は、
・令和4年度の一般会計、特別会計及び事業会計に

- 係る補正予算案件が 6 件、
- ・ 条例の一部改正案件が 1 3 件、
 - ・ 条例の廃止案件が 1 件、
 - ・ 財産の取得案件が 1 件の 計 2 1 案件であります。

各議案の細部につきましては、それぞれ所管する担当課長に説明いたさせますので、慎重にご審議の上速やかなご議決を賜りますようお願い申し上げます。